

千葉労災病院卒後研修プログラム概要

I プログラムの名称

千葉労災病院卒後研修プログラム

II 研修プログラムの目的及び特徴

初期研修においてすべての研修医が、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践し、プライマリケアを適切に行うなど医療人として必要な基本姿勢・態度を修得することがこの研修プログラムの目的である。

このプログラムはすべての研修医に対して公平で一貫した臨床研修を提供するために、千葉労災病院臨床研修管理委員会が管理・運営し、継続的に問題点を検討する。

研修内容は、厚生労働省の定める研修必修項目を偏り無く実習することができるように配慮されている。また、初期研修2年目には研修医自身の希望を取り入れた選択科目を研修できる。このプログラムを修了することにより研修医は将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的臨床能力（態度、技能、知識）を身につけると同時に専門医への紹介の技術を身につける。

III 研修プログラム責任者

臨床研修総括責任者

岡本 美孝（臨床研修管理委員会委員長、病院長）

プログラム責任者

松本 正成（卒後臨床研修管理室長、第三外科部長）

IV 研修指導医

研修指導医は各科の研修プログラムに具体的氏名を記載する。

V 定員

当院の基幹型臨床研修医の定員は1学年10名とする。

VI プログラムの管理運営

研修プログラム責任者などにより構成される千葉労災病院臨床研修管理委員会によって、研修医の経験目標の達成状況を評価し、経験目標をクリアできるように各研修医を指導する。

VII プログラムの概要

1 オリエンテーション

採用後、診療を開始するまでの期間に全研修医を対象としてオリエンテーションを行う。オリエンテーションでは、実際の診療を開始する上で全ての研修医に共通に必要な研修項目として、セーフティー・マネジメント、院内感染予防、保険診療、接遇等を講義及び実習によって研修する（約2週間）。

2 研修方法の概要と特徴

1年目研修は、必修科目である内科28週間、救急医療12週間（このうち4週間は麻酔科での研修）外科8週間、小児科4週間、産婦人科4週間、精神科（協力施設で研修）4週間の中で可能な範囲を履修する。なお、夏期には1週間の夏休み期間を設定する。1年次から2年次に継続して研修ブロックを配置して良い。

2 年目研修では、残った必修科研修のほかに、地域医療研修 4 週間（在宅医療研修を追加する場合は更に 1 週間）を履修し、夏休み 1 週間を設定する。残りの期間は選択科目として研修を行う。選択科目は、千葉労災病院内の臨床科目の中から選択できる。具体的科目として、「内科（消化器グループ、呼吸器グループ、糖尿病・代謝グループ、腫瘍血液グループ、アレルギー膠原病グループ）」、「循環器内科」、「脳神経内科」、「精神科（協力施設で研修）」、「小児科」、「一般外科」、「乳腺外科」、「呼吸器外科」、「整形外科」、「形成外科」、「脳神経外科」、「泌尿器科」、「産婦人科」、「眼科」、「耳鼻咽喉科」、「リハビリテーション科」、「麻酔科」、「放射線科」、「病理診断科」、「検査科」、「重症・救命科」及び「保健・医療行政」の研修をローテイトして研修できる。研修期間は原則として最短 4 週間、最長は 8 週間とする。具体的研修内容はそれぞれの研修プログラムに定める。

必修内科 28 週及び選択の内科の期間に一般内科外来研修を週 1 日並行研修として行う。なお、同日にローテイト中の内科グループの慢性期外来研修も行う事を可とする。さらに、必修外科 8 週および必修小児科 4 週、地域医療研修 4 週間において、週 1 日を並行研修として外来研修を行う。（計 40 日）

なお、地域医療研修は近郊の診療所及び中小病院の臨床協力施設、精神科研修は医療法人直樹会磯ヶ谷病院等、保健・医療行政研修は古河電工千葉事業所健康管理センターで行う。

研修期間割と研修医の配置予定例は次表のごとくである。

表 1 年次研修医配置表案

～2 週	28 週	1 週	4 週	8 週	4 週	4 週
オリエンテーション	内科研修	夏休み	外科研修	救急医療研修(4 週) (麻酔科 4 週)	小児科 研修	産婦人科 研修

注) 1 年次から 2 年次に継続して研修ブロックを配置して良い

表 2 年次研修医配置表案

4 週	4 週	4 週	1 週	4 週 (+1 週)	残り期間
救急医療 研修	外科研修	精神科研 修	夏休み	地域医療研修(在宅 医療 1 週)	選択研修

注) 地域医療研修は、下記の研修実施施設から 1 か所を選択する

選択研修は別に定める研修科目から選択する

【研修実施施設】

基幹型臨床研修病院：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

協力型臨床研修病院：《精神科研修》 医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院
社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院
社会医療法人社団同仁会 木更津病院

臨床研修協力施設：《地域医療研修》 医療法人社団琢心会 辰巳病院
医療法人社団仁敬会 いまい内科循環器クリニック
医療法人淳英会 おゆみの中央病院
おもて内科糖尿病クリニック

以上の協力施設から、いずれか 1 か所を選択

なお、おゆみの中央病院と辰巳病院以外では在宅医療研修 1 週間を追加する。

《在宅医療研修》 医療法人伍光会 上総在宅診療所

3 研修内容と到達目標

この千葉労災病院卒後研修プログラムは、新臨床研修制度によって2年間の臨床研修必修化に定められた研修内容に準拠して、千葉労災病院における臨床研修を定めるものである。経験目標などに関しては、厚生労働省の定める目標を十分に満たす内容とする。

臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

－到達目標－

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加

味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

II 実務研修の方略

研修期間

研修期間は2年間とし、詳細は、「VI プログラムの概要」「2 研修方法の概要と特徴」に記載した。精神科研修は協力型臨床研修病院にて、地域医療研修・在宅医療研修及び保健・医療行政研修は協力施設と共同して臨床研修を行う。なお、地域医療等における協力施設での研修期間は、12 週を上限とする。

臨床研修を行う分野・診療科

- ① 内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とする。また、一般外来での研修を内科、外科、小児科、地域医療において並行研修として行う。
- ② 内科 28 週以上、救急 12 週以上（麻酔科 4 週含む）、外科 8 週以上、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療それぞれ 4 週以上の研修を行う。なお地域医療の施設によっては在宅医療研修 1 週を追加する。
- ③ 原則として、各分野は一定のまとまった期間に研修（ブロック研修）を行うことを基本とする。
- ④ 内科については、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む。
- ⑤ 外科については、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む。
- ⑥ 小児科については、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修を含む。

- ⑦ 産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を含む。
- ⑧ 精神科については、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、精神科専門外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含む。なお、急性期入院患者の診療を行う。
- ⑨ 救急については、頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を含む。また、麻酔科における研修4週を含む。麻酔科の研修では、気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修を含む。
- ⑩ 一般外来での研修については、内科・外科・小児科研修・地域医療の際の週1日の並行研修により、計8週以上の研修を行う。なお、症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく初診患者の診療を総合内科外来・外科外来・小児科外来・地域医療にて行い、慢性疾患患者の継続診療は内科（消化器・呼吸器・内分泌代謝サブグループ）外来にて研修する。
- ⑪ 地域医療については、指定の施設において2年次に行う。なお、
- 1) 在宅医療の研修を行えない施設の場合は、別途在宅医療研修1週間を追加する。
 - 2) 病棟研修を行う場合は慢性期・回復期病棟での研修を含めること。
 - 3) 医療・介護・保健・福祉に係わる種々の施設や組織との連携を含む、地域包括ケアの実際について学ぶ機会を十分に含めることとする。
- ⑫ 選択研修として、保健・医療行政研修を選択できる。
- ⑬ 全研修期間を通じて、感染対策（院内感染や性感染症等）、予防医療（予防接種等）、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、臨床病理検討会（CPC）等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含む。また、診療領域・職種横断的なチーム（感染制御、緩和ケア、栄養サポート、認知症ケア、退院支援等）の活動に参加することが可能である。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29 症候）

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26 疾病・病態）

※ 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴

要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むレポートとして提出すること。なお、一症例において症候と疾患・病態を組み合わせで一つのレポートとして良い。また同一症例にて複数の症候あるいは疾患・病態のレポートを作成してよいが考察は別個とし、分けて提出する事。加えて、CPC レポートも提出すること。

また、EPOC2 を経験の記録として活用することとする。

Ⅲ 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師及び関連部門長を含む。なお、評価票はインターネット上のシステム（EPOC2）を使用する。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

研修医評価票

Ⅰ．「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

- A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
- A-2. 利他的な態度
- A-3. 人間性の尊重
- A-4. 自らを高める姿勢

Ⅱ．「B. 資質・能力」に関する評価 B-1. 医学・医療における倫理性

- B-2. 医学知識と問題対応能力
- B-3. 診療技能と患者ケア
- B-4. コミュニケーション能力
- B-5. チーム医療の実践
- B-6. 医療の質と安全の管理
- B-7. 社会における医療の実践
- B-8. 科学的探究
- B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

Ⅲ．「C. 基本的診療業務」に関する評価

- C-1. 一般外来診療
- C-2. 病棟診療
- C-3. 初期救急対応
- C-4. 地域医療

研修医評価票 I

「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日

記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	レベル1 期待を 大きく 下回る	レベル2 期待を 下回る	レベル3 期待 通り	レベル4 期待を 大きく 上回る	観察 機会 なし
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	☐	☐	☐	☐	☐
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	☐	☐	☐	☐	☐
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐

※「期待」とは、「研修修了時に期待される状態」とする。

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。特に、「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。

研修医評価票 Ⅱ

「B. 資質・能力」に関する評価

研修医名：_____

研修分野・診療科：_____

観察者 氏名 _____ 区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____年____月____日 ～ _____年____月____日

記載日 _____年____月____日

レベルの説明

レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
臨床研修の開始時点で 期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	臨床研修の中間時点で 期待されるレベル	臨床研修の終了時点で 期待されるレベル (到達目標相当)	上級医として 期待されるレベル

1. 医学・医療における倫理性：

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時で期待されるレベル	レベル 4
■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。 ■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。	人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	モデルとなる行動を他者に示す。
	倫理的ジレンマの存在を認識する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
	利益相反の存在を認識する。	利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止を認識する。	診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	モデルとなる行動を他者に示す。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

2. 医学知識と問題対応能力：

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。 ■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。	頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。
	基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。	患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。
	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

3. 診療技能と患者ケア：

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■ 必要最低限の病歴を聴取し、網羅的に系統立てて、身体診察を行うことができる。 ■ 基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。 ■ 問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 ■ 緊急を要する病態、慢性疾患、に関して説明ができる。	必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。	患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
	基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。	患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。	複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。
	最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。	診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。	必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

4. コミュニケーション能力： 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。							
レベル 1 モデル・コア・カリキュラム		レベル 2		レベル 3 研修終了時に期待されるレベル		レベル 4	
■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。 ■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。 ■患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。 ■患者の要望への対処の仕方を説明できる。		最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。		適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。		適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。	
		患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。		患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。		患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。	
		患者や家族の主要なニーズを把握する。		患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。		患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。	
☐		☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった							
コメント：							

5. チーム医療の実践：

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■チーム医療の意義を説明でき、(学生として) チームの一員として診療に参加できる。 ■自分の限界を認識し、他の医療従事者の援助を求めることができる。 ■チーム医療における医師の役割を説明できる。	単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。	医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。	複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで実践する。
	単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

6. 医療の質と安全の管理： 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。						
レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2		レベル 3 研修終了時に期待されるレベル		レベル 4	
■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる ■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる ■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる	医療の質と患者安全の重要性を理解する。		医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。		医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。	
	日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。		日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。		報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。	
	一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。		医療事故等の予防と事後の対応を行う。		非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。	
	医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。		医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。		自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。	
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった						
コメント：						

7. 社会における医療の実践：

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■ 離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。 ■ 医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。 ■ 災害医療を説明できる ■ （学生として）地域医療に積極的に参加・貢献する	保健医療に関する法規・制度を理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
	健康保険、公費負担医療の制度を理解する。	医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。
	地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
	予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	予防医療・保健・健康増進に努める。	予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。
	地域包括ケアシステムを理解する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。
	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	災害や感染症パンデミックなどを想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

8. 科学的探究：

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。 ■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。	医療上の疑問点を認識する。	医療上の疑問点を研究課題に変換する。	医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。
	科学的研究方法を理解する。	科学的研究方法を理解し、活用する。	科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。
	臨床研究や治験の意義を理解する。	臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

レベル 1 モデル・コア・カリキュラム	レベル 2	レベル 3 研修終了時に期待されるレベル	レベル 4
■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
	同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）の重要性を認識する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。
☐	☐	☐	☐

☐ 観察する機会が無かった

コメント：

研修医評価票 Ⅲ

「C. 基本的診療業務」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ～ _____ 年 _____ 月 _____ 日

記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

レベル	レベル1 指導医の 直接の監 督の下で できる	レベル2 指導医が すぐに対 応できる 状況下で できる	レベル3 ほぼ単独 でできる	レベル4 後進を指 導できる	観察 機会 なし
C-1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	☐	☐	☐	☐	☐

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名：_____

臨床研修の目標の達成状況	☐ 既達 ☐ 未達
--------------	---

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

到達目標	達成状況： 既達／未達	備 考
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与	☐ 既 ☐ 未	
2. 利他的な態度	☐ 既 ☐ 未	
3. 人間性の尊重	☐ 既 ☐ 未	
4. 自らを高める姿勢	☐ 既 ☐ 未	

B. 資質・能力

到達目標	既達／未達	備 考
1. 医学・医療における倫理性	☐ 既 ☐ 未	
2. 医学知識と問題対応能力	☐ 既 ☐ 未	
3. 診療技能と患者ケア	☐ 既 ☐ 未	
4. コミュニケーション能力	☐ 既 ☐ 未	
5. チーム医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
6. 医療の質と安全の管理	☐ 既 ☐ 未	
7. 社会における医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
8. 科学的探究	☐ 既 ☐ 未	
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	☐ 既 ☐ 未	

C. 基本的診療業務

到達目標	既達／未達	備 考
1. 一般外来診療	☐ 既 ☐ 未	
2. 病棟診療	☐ 既 ☐ 未	
3. 初期救急対応	☐ 既 ☐ 未	
4. 地域医療	☐ 既 ☐ 未	

(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)

年 月 日

千葉労災病院卒後臨床研修プログラム責任者 _____

4 勤務時間

原則として午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までである。

月に 3 回程度、指導医・上級医とともに時間外救急業務を行う。

アルバイトは禁止である。

5 週間スケジュール

具体的研修内容はそれぞれの研修プログラムに定める。

6 研修の評価と修了認定

(1) 研修医の評価

研修医は、インターネットを用いたシステム（EPOC2）と研修レポート等により自己の研修内容を記録、評価し、病歴や手術の要約を作成する。

指導医及び病棟師長あるいは部門長は、ローテーションごとに研修期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を把握し、形成的評価を行う。評価は指導医及び看護師長あるいは部門長等チーム医療スタッフ、研修管理室事務職によっても行われる。2 年間の全プログラム終了時に、臨床研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

病院長は、臨床研修管理委員会が行った評価を受けて研修修了証を交付する。

(2) 指導医等の評価

研修終了後、研修医による指導医及び診療科での研修の評価が行われ、その結果は指導医と診療科へフィードバックされる。

(3) 研修プログラムの評価

研修プログラム（研修施設、研修体制、指導体制）が効果的かつ効率よく行われているかを定期的（年 3 回を原則とするが必要に応じそれ以上の回数）に臨床研修管理委員会が中心となって自己点検・評価し、その結果を公開する。

VIII 研修医の指導体制

プログラム責任者は、本プログラムの管理運営に関し責任を持つ。また、このプログラムのもとに研修を行う各診療科部長が指導責任者となり、その診療科での研修に責任を持つ。さらに実際の研修においては十分な経験を持つ指導医が研修医の直接の指導及び評価を行う。

なお、指導医は各科の研修プログラムに具体的氏名を記載する。

IX プログラムの管理運営

研修プログラム責任者などにより構成される千葉労災病院臨床研修管理委員会によって、研修医の経験目標の達成状況の評価し、経験目標をクリアできるように各研修医を指導する。

X 研修条件（処遇）

身 分	常勤医師（１年毎の契約） （研修期間中は、労働者健康安全機構の嘱託職員として身分が保証される）	
研修手当	① 研修手当 １年次 月額 330,000 円 賞与（一時金あり） ２年次 月額 350,000 円 賞与（一時金あり） ②時間外手当あり平日時間外および休日の救急業務および、ローテイト科の部長により命じられた時間外勤務に対して規定の報酬を支給する。 ③時間外救急業務に関する手当あり。 ④祝日出勤手当及び年末年始手当あり。 時間外救急業務を実施した時に限り正規職員に準じ支給する	
勤務時間	８時 30 分～17 時 15 分（休憩時間 45 分）	
休 日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）、 創設記念日（7 月 1 日）	
有給休暇	１年目 10 日／年	２年目 10 日／年
その他の休暇	夏季休暇 5 日（6 月から 10 月の取得に限る）	
時間外勤務	救急業務およびローテイト科の部長に命じられた場合に限る。	
時間外救急業務	指導医・上級医とともに月 3 回程度の勤務	
住 居	1DK（月額 8,122 円）～3DK（月額 24,412 円） 原則全員入居可能	
研修医室	専用の研修医室 1 室、専用机あり、院内 LAN 完備	
社会保険	組合管掌健康保険、厚生年金、雇用保険	
労働保険	労働者災害補償保険法の適用あり	
健康管理	定期健康診断（年 2 回）、予防接種	
医師賠償責任保険	病院において加入 個人加入は任意だが、時代の流れからも加入を推奨	
外部研修活動	講習会、学会、症例検討会等への参加可能 発表者には旅費の病院負担あり（上限：年間 25,000 円）	
その他	研修医には医師法上研修専念義務が課せられているため、アルバイトは禁止	

XI 研修医の募集・採用について

募集方法：公募

応募必要書類：履歴書・卒業（見込み）証明書・成績証明書

選考方法：面接

募集及び専攻の時期：募集時期（7 月 1 日頃から）、選考時期（8 月 15 日頃から）

採用方法：医師臨床研修マッチング協議会が行うマッチングに参加します。

○研修全般に関する問い合わせ、連絡先

〒290-0003 千葉県市原市辰巳台東2丁目16番地

独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院 総務課

電話 0436-74-1111（代）／FAX 0436-74-1151

e-mail shomuka@chibah.johas.go.jp ホームページ <http://www.chibah.johas.go.jp/>

令和3年3月22日改訂

令和4年3月25日改訂

令和4年11月15日改訂

令和5年4月24日改訂

令和6年6月20日改訂

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
外科 消化器外科	松本 正成	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	29	○	日本外科学会 認定医、指導医、外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医		1, 4
内科 糖尿病・ 内分泌内科	三村 正裕	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	43	○	日本内科学会 指導医、認定内科医 日本糖尿病学会 指導医、糖尿病専門医 日本内分泌学会 指導医、内分泌代謝科専門医 日本腎臓学会 腎臓専門医 他		4
内科 糖尿病・ 内分泌内科	石川 耕	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	26	○	日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医 日本糖尿病学会 指導医、糖尿病専門医		4
アレルギー・ 膠原病内科	玉地 智宏	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	26	○	日本内科学会 指導医、認定内科医、総合内科専門医 日本リウマチ学会 専門医、指導医 日本アレルギー学会 専門医		4
内科 腫瘍血液 内科	原 暁	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副院長	31	○	日本内科学会 認定内科医 日本血液学会 血液専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4
内科 呼吸器内科	高橋 由希子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	12	○	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本医師会認定産業医		4
内科 消化器内科	梶谷 佳生	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	25	○	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医		4
内科 消化器内科	石神 秀昭	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	16	○	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4
内科 消化器内科	関本 匡	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	19	○	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医、指導医 日本消化器内視鏡学会 学会専門医、指導医 日本消化器病学会 指導医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
内科 消化器内科	栗津 雅美	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	12	○	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医		4
内科 消化器内科	泉水 美有紀	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	12	○	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 消化器専門医		4
内科 消化器内科	石毛 克拓	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	11	○			4
内科 呼吸器内科	弥富 真理	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	26	○	日本内科学会 指導医、認定内科医、総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本医師会認定産業医 他		4
内科 呼吸器内科	木下 拓	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	14	○	日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器指導医、専門医 日本睡眠学会 専門医		4
内科 腫瘍血液内科	川口 岳晴	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	19	○	日本内科学会 認定内科医 日本血液学会 血液専門医、指導医		4
内科 緩和ケア内科	山本 真弓	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	15	○	日本内科学会 認定内科医 日本内科学会 総合内科専門医		4
内科 循環器内科	山内 雅人	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	37	○	日本内科学会 指導医、認定内科医 日本循環器学会 循環器専門医		4
内科 循環器内科	石橋 聡	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	26	○			4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
内科 循環器内科	李 光浩	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	26	○			4
内科 循環器内科	浅野 達彦	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	23	○	日本内科学会 認定内科医 日本循環器学会 循環器専門医		4
内科 循環器内科	牧之内 崇	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	18	○	日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医 日本高気圧環境・潜水学会 高気圧酸素治療専門医 日本医師会認定産業医		4
内科 神経内科	平賀 陽之	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	25	○	日本神経学会 指導医、神経内科専門医 日本内科学会 認定内科医 日本脳卒中学会 専門医 日本頭痛学会 専門医		4
内科 脳神経内科	小島 一步	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	17	○	日本神経学会 神経内科専門医 日本内科学会 認定内科医		4
外科 消化器外科	草塩 公彦	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副院長	33	○	日本外科学会 認定医、外科専門医		4
外科 乳腺外科	笠川 隆玄	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	30	○	日本外科学会 認定医、外科専門医 日本乳癌学会 認定医、乳腺専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4
外科 消化器外科	鈴木 大	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	26	○	日本外科学会 認定医、外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医		4
外科	伏見 航也	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	24	○	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
外科 乳腺外科	藤森 俊彦	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	22	○	日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会 認定医 マンモグラフィ読影認定医		4
外科 乳腺外科	今村 南海子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	22	○	日本外科学会 外科専門医		4
外科 乳腺外科	古川 新	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	17	○	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医		4
外科	芦澤 陽介	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	17	○	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医		4
小児科	有井 潤子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	32	○	日本小児科学会 小児科専門医 日本小児神経学会 小児神経専門医		4
小児科	鈴木 亮介	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	13	○	日本小児科学会 小児科専門医		4
整形外科	池田 義和	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	35	○	日本整形外科学会 整形外科専門医 日本整形外科学会 認定脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会 指導医		4
整形外科	中島 文毅	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	35	○	日本整形外科学会 整形外科専門医 日本整形外科学会 認定脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会 指導医		4
整形外科	橋本 光宏	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	29	○	日本整形外科学会 整形外科専門医 日本整形外科学会 認定脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会 指導医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
整形外科	阿部 圭宏	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	29	○	日本整形外科学会 整形外科専門医 手外科専門医		4
整形外科	守屋 拓朗	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	22	○	日本整形外科学会 整形外科専門医		4
整形外科	秋本 浩二	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	15	○	整形外科専門医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本整形外科学会 認定リハビリテーション医		4
脳神経外科	三枝 敬史	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	37	○	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医		4
脳神経外科	伊藤 誠朗	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	29	○	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医		4
呼吸器外科	安川 朋久	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副院長	37	○	日本外科学会 外科専門医 呼吸器外科専門医 日本呼吸器内視鏡学会 指導医、気管支鏡専門医 日本がん治療認定医機構 暫定教育医、がん治療認定医 他		4
呼吸器外科	塩田 広宣	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	22	○	日本外科学会 外科専門医 呼吸器外科専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本医師会認定産業医		4
呼吸器外科	守屋 康充	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	29	○	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本胸部外科学会 認定医 呼吸器外科専門医 日本医師会認定 産業医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 他		4
形成外科	吉良 智恵	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	24	○	日本形成外科 形成外科専門医 日本形成外科 小児形成外科指導医 日本形成外科 皮膚腫瘍外科指導医 日本形成外科 再建・マイクロサージャリー指導医 日本形成外科学会 領域指導認定医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
泌尿器科	柳澤 充	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	21	○	日本泌尿器科学会 指導医、泌尿器科専門医		4
泌尿器科	増田 広	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	32	○	日本泌尿器科学会 指導医、泌尿器科専門医 日本性感染症学会 認定医 日本透析医学会 指導医、専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4
泌尿器科	新井 隆之	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	14	○			4
産婦人科	川野 みどり	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	26	○	日本産科婦人科学会 産婦人科専門医		4
産婦人科	伊東 敬之	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	32	○	日本産科婦人科学会 産婦人科専門医		4
眼科	高綱 陽子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	36	○	日本眼科学会 指導医、眼科専門医		4
耳鼻咽喉科	藤川 陽	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	20	○	日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医		4
歯科口腔外科	山本 亜有美	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	17	○			4
リハビリテーション科	小沢 義典	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	42	○	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医 日本リハビリテーション医学会 認定臨床医 日本職業・災害医学会 労災補償指導医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
リハビリテーション科	小河原 一恵	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	30	○	日本内科学会認定内科医 日本神経学会認定神経内科専門医 日本臨床神経整理学会認定医		4
リハビリテーション科	武藤 真弓	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	18	○	日本内科学会 認定内科医 日本神経内科学会 神経内科専門医		4
麻酔科	水野 裕子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	22	○	日本麻酔科学会 麻酔科専門医、指導医		4
麻酔科	伊澤 英次	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	45	○	日本麻酔科学会 麻酔科専門医		4
麻酔科	小見田 真理	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	19	○	日本麻酔科学会麻酔科認定医 日本麻酔科学会麻酔科専門医		4
放射線科	安田 茂雄	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	37	○	日本医学放射線学会 放射線治療専門医 日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医 日本医学放射線学会 研修指導者 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医		4
病理診断科	尾崎 大介	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	33	○	日本病理学会 専門医、指導医 日本臨床細胞学会 細胞診専門医		4
病理診断科	米盛 葉子	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	24	○	日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医 日本病理学会 専門医、指導医 日本臨床細胞学会 細胞診専門医		4
精神科	山内 厚史	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	18	○	精神保健指定医 日本医師会認定産業医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
救急・ 集中治療 部	山本 奈緒	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	部長	15	○	日本救急医学会 救急科専門医 日本外科学会 外科専門医 日本集中治療医学会 集中治療専門医 日本航空医療学会 認定指導医		4
救急・ 集中治療 部	矢野 清崇	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	12	○	日本医師会認定 健康スポーツ医		4
救急・ 集中治療 部	本島 卓幸	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	16	○			4
救急・ 集中治療 部	清水 太郎	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	副部長	16	○			4
救急・ 集中治療 部	森脇 龍太郎	独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院	医師	40	○	日本救急医学会 救急科専門医、指導医 日本集中治療医学会 集中治療専門医 日本プライマリケア連合学会 認定医、指導医 日本内科学会 総合内科専門医、指導医 日本循環器病学会 循環器専門医 日本医師会認定産業医		4
精神科	木村 直人	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	理事長	38	○	精神科専門医		3, 4
精神科	根本 豊實	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	院長	38	○	精神科専門医		4
精神科	森山 稔弘	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	副院長	35	○	精神科専門医		4
精神科	崎岡 岩雄	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	副院長	33	○	精神科専門医		4

3 3 . 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
精神科	竹之内 奈穂	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	診療部長	22	○	精神科専門医		4
精神科	大岩 宜博	医療法人社団直樹会 磯ヶ谷病院	医局長	16	○	精神科専門医		4
精神科	菊池 周一	袖ヶ浦さつき台病院	院長	35	○	精神保健指定医		3, 4
精神科	鈴木 均	袖ヶ浦さつき台病院	診療部部長	25	○	精神保健指定医		4
精神科	倉田 勉	袖ヶ浦さつき台病院	精神科研究 部長	22	○	精神保健指定医		4
精神科	中川 萌以	袖ヶ浦さつき台病院	精神科副主 任医長	14	○	精神保健指定医		4
精神科	石毛 稔	袖ヶ浦さつき台病院	診療部顧問	26	○	精神保健指定医		4
精神科	大掛 真太郎	袖ヶ浦さつき台病院	精神科教育 副部長	20	○			4
精神科	大熊 孝裕	袖ヶ浦さつき台病院	精神科副部 長	13	○	精神保健指定医		4

3.3. 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
精神科	関根 博	社会医療法人社団同仁会木更津病院	院長	36	○	日本精神神経学会指導医、精神保健指定医		3, 4
精神科	高瀬 美咲	社会医療法人社団同仁会木更津病院	医務部長	34	○	日本精神神経学会指導医、精神保健指定医		4
精神科	小林 圭介	社会医療法人社団同仁会木更津病院	副院長	24	×	精神科特定医師		3
精神科	吉田 泰介	社会医療法人社団同仁会木更津病院	医局長	22	○	日本精神神経学会指導医、精神保健指定医		4
精神科	細田 豊	社会医療法人社団同仁会木更津病院	医師	16	○	日本精神神経学会専門医、精神保健指定医		4
精神科	今村 幸嗣	社会医療法人社団同仁会木更津病院	医師	13	○	日本精神神経学会専門医、精神保健指定医		4
保健・医療行政	幸地 勇	古川電気工業株式会社千葉事業所	統括産業医	19	○	日本産業衛生学会指導医 労災補償指導医		3, 4
内科 外科	鈴木 章浩	医療法人社団琢心会辰巳病院	副院長	21	○			3, 4
内科	今井 均	医療法人社団仁敬会いまい内科循環器科クリニック	院長	44	○	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医		3, 4

3.3. 臨床研修指導医（指導医）等の氏名等

病院施設番号：030167

基幹病院の名称：独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院

担当分野	氏名	所属	役職	臨床経験 年 数	指導医講習会等の 受講経験 有：○ 無：×	資格等	プログラム番号	備考 1. プログラム責任者 2. 副プログラム責任者 3. 研修実施責任者 4. 臨床研修指導医（指導医）
整形外科 地域医療	山下 剛司	おゆみの中央病院	理事長・院長	28	○	整形外科専門医 医学博士 第19回千葉大学卒後臨床研修指導医養成ワークショップ 修了		3, 4
地域医療	栗山 彩花	おゆみの中央病院	内科医長	12	○	日本内科学会認定医 呼吸器専門医 第18回千葉大学卒後臨床研修指導医養成ワークショップ 修了		3, 4
地域医療	吉田 亮太	おゆみの中央病院	内科医長	11	×	消化器病専門医 消化器内視鏡専門医 肝臓専門医 認定内科医		
地域医療	表 敬介	おもて内科糖尿病クリニック	院長	18	×	医学博士 日本内科学会認定内科医 総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医 日本高血圧学会高血圧専門医 日本抗加齢医学専門医 日本医師会認定産業医		3
地域医療	表 瑠里	おもて内科糖尿病クリニック	副院長	17	×	日本内科学会認定内科医 総合内科専門医 日本糖尿病学会糖尿病専門医		
地域医療	大澤 宏	おもて内科糖尿病クリニック	診療部長	34	○	日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者 日本循環器学会循環器専門医 日本脈管学会認定脈管専門医 胸部外科学会認定医・指導医・評議員 日本外科学会外科専門医・指導医 腹部ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤血管内焼灼実施医・指導医 日本血管外科学会認定血管内治療医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医 インフェクションコントロールドクター 初期臨床研修指導医		4
在宅	大谷津 翔	医療法人社団伍光会上 総在宅診療所	院長	8	×			3